

(別紙様式)

中山間ふるさと・水と土保全対策事業 中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事業実施計画

計画期間：令和2年度～令和6年度

(令和6年度)

計 画 内 容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業計画
3. 事業実施の成果目標と実績
4. 事業評価と対応

石川県

1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和6年度
現状と課題	本県の農村地域においては過疎化や高齢化が進み、特に中山間地域では担い手の減少や耕作放棄地の増加により、農業農村が持つ多面的機能の低下が懸念される。
事業実施の基本方針	令和2～令和6年度の5カ年間を計画期間とし、本事業により、農村地域の重要性について県民の理解を促進することで、農村が有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図る。
計画後の目指す姿	本事業により実施される活動や取組みによって、地域・都市住民や時代を担う子どもたちを対象に農村地域の重要性について普及・啓発を行うことで、将来にわたって農地及び土地改良施設の保全体制の充実を図り、多面的機能の良好な発揮を目指す。

2. 事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業（量）内容	総事業費（千円）				
いしかわ田んぼの学校推進プロジェクト事業	小学生を対象とした農作業体験を行うことで、農業や農作物への理解促進と、環境に対する意識向上について普及・啓発を図る。	①	ふる水第3-2-(3)	・県内の小学生を対象として、田んぼや畑における農作業体験や生き物調査等を、希望校数に応じて実施する。 ・農作業体験等を毎年継続して行うことで、参加児童数のべ8万人以上を目指す。	(28,620)				
里山のパートナーづくり推進事業	人手不足となっている集落において、地域住民と都市住民が共同で保全活動に取り組むことで、里山保全に対する意識の普及・啓発を図る	②	第3-2-(3)	・過疎化や高齢化で人手不足となっている集落の農地や水路・農道の維持保全を継続して行うため、集落からの要望に応じて都市住民のボランティアを派遣し、「農村役立ち隊」の登録者数のべ440人を目指す。	(12,600)				
河北潟植生保全管理事業	河北潟において植生の現状調査を行い、植生保全を通じた水質浄化の調査研究を行うほか、検討会を通じて住民活動の活性化に関する人材育成を行うとともに、環境保全に係る普及・啓発活動を実施する。	③	第3-2-(1) 第3-2-(2) 第3-2-(3)	・河北潟の水質浄化に向けて、継続的に植生保全管理、外来植物の除去を行うほか、状況に応じて水生植物の生息状況等の実態調査を行う。 ・水質改善の取り組みを促進するため、住民とともに水辺の管理手法の検討を行うほか、毎年、地域住民や子どもたちを対象に、河北潟自然再生まつりや水辺体験会を実施し、年間あたりの参加人数100人以上を目指す。	(10,000)				
ふるさと保全推進費	河北潟干拓地における農業が有する多面的機能を普及・啓発するため、ひまわり村を開村し、地域・都市住民に対して地域の振興発展の意識向上を図る。	④	第3-2-(3)	・河北潟干拓地内の農地の一部を活用してひまわり村を毎年開村し、年間あたりの来場者3万人を目指す。	(5,500)				
地域農業水利施設予防保全調査事業	農業水利施設の機能を保全するための現状調査を行い、GIS情報を整理することで、保全計画策定の基礎資料として活用を図る。	⑤	第3-2-(1)	・令和4年度までを目標に農業水利施設（用・排水機場）の現状調査を行いGIS化を図る。 ・県内に101箇所ある排水機場のうち、未調査の23箇所及び、県内に414箇所ある用水機場のうち、未調査の129箇所について実施する。	(6,560)				
次世代農人実践的技術習得支援事業	耕作放棄地再生農地での栽培試験を行うとともに、新規就農者を対象とした研修等を行うことで、農地保全等への意識向上について普及・啓発を図る。	⑥	第3-2-(1) 第3-2-(3)	・耕作放棄地再生農地の状況に応じた農作物の栽培試験を行う。 ・新規就農者の技術習得を目的とした機械操作研修等を、年間あたりの研修受講者20人程度を目指して毎年行う。	(4,400)				
棚田保全対策事業	棚田地域の保全活動や土地改良施設の保全・利活用により、農業生産活動及び農村コミュニティの維持・活性化、棚田地域の多面的機能の発揮を図る活動に対して助成し、活動の必要性の普及・啓発を図る。	⑦	棚田第3-2-(2) 第3-2-(3)	・住民組織による棚田オーナー制度、農作業体験イベント等の棚田の保全活動に対して、要望に応じて活動助成を行う。活動計画に応じて、最大3年間の継続的な支援を行うとともに、毎年1地区の新規取組を目指す。	(4,200)				
里山地域活性化推進事業	スローツーリズムやグリーン・ツーリズムの推進により、里山里海地域の活性化を図ることを目的として、都市住民に対する情報提供を行う。	⑧	第3-2-(1)	・スローツーリズムやグリーン・ツーリズムの推進にあたり、本県ならではの多様なサービスを提供していくため、継続して農家民宿の普及拡大、県内外への情報発信を行うことで、年間あたりの農家民宿等の入込客数20,000人を目指す。	(12,200)				
中山間地域対策事業	中山間地域の魅力発信や、交流人口の拡大を図るための情報提供、体験の場の提供を行う。	⑨	第3-2-(1)	・年2回、ふるさとの匠による体験教室を実施し、都市住民への体験交流の場の提供するとともに、中山間地域活性化フォーラムの開催により、中山間地域の役割や豊かさについて継続的に理解を深める。	(7,800)				
石川の農林漁業まつり開催事業	農林漁業まつりの開催を通して、農林漁業に対する県民の理解促進を図る。	⑩	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(3)	・県民皆で秋の収穫の喜びを分かち合い、農林漁業関係者と消費者とのより緊密な関係を構築するとともに、県産農林水産物・加工品の販売や体験、展示により農林漁業への理解を深めるためのイベントを年1回開催し、来場者数3万人を目指す。	(5,300) (11,700)				
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
中山間ふるさと・水と土保全対策事業（ふる水と土基金）			計画事業費	15,284	14,844	14,484	14,184	14,184	72,980
			（実績額）	(12,996)	(11,591)	(12,675)	(11,086)		
中山間ふるさと・水と土保全推進事業（棚田基金）			計画事業費	9,140	5,540	7,040	7,340	6,840	35,900
			（実績額）	(4,045)	(1,774)	(6,037)	(5,174)		

3. 事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
① 農業や農作物への理解促進と、環境に対する豊かな感性を持つ子どもの育成を支援する。	・のべ参加児童数	のべ55,793人 (R1時点)	・のべ8万人以上	のべ60,939人 (R2実績)	のべ66,535人 (R3実績)	のべ73,153人 (R4実績)	のべ79,771人 (R5実績見込み)		
② 里山に対する理解の醸成を図る。	役立ち隊登録者数	398人 (R1時点)	・のべ440人 (1割増加)	役立ち隊登録者431人 (R3.3月時点) 13地区20回の活動を実施し、のべ373人が参加 ※新型コロナの影響により、一部中止となった活動あり	役立ち隊登録者477人 (R4.2月時点) 11地区13回の活動を実施し、のべ186人が参加 ※新型コロナの影響により、一部中止となった活動あり	役立ち隊登録者529人 (R5.1月時点) 17地区28回の活動を実施し、のべ381人が参加	役立ち隊登録者583人 (R6.1月時点) 18地区36回の活動を実施し、のべ366人が参加		
③ 河北潟において植生保全を通じた水質浄化の調査研究を行うとともに、環境啓蒙活動を実施する。	・保全管理による植生の回復 ・環境啓蒙活動イベント参加人数		・イベント参加人数 100人/年以上	・植生保全管理、外来植物除去、水生植物の生息状況等実態調査を実施 ・環境啓蒙活動イベント377人参加	・植生保全管理、外来植物除去、水生植物の生息状況等実態調査を実施 ・環境啓蒙活動イベント623人参加	・植生保全管理、外来植物除去、水生植物の生息状況等実態調査を実施 ・環境啓蒙活動イベント511人参加	・植生保全管理、外来植物除去、水生植物の生息状況等実態調査を実施 ・環境啓蒙活動イベント345人参加		
④ ひまわり村を通じた、河北潟干拓地農業の普及啓発と、地域の振興発展を図る。	・ひまわり村への来場者数	2.5万人/年 (H27～R1平均)	・3万人/年	・3.2万人/年	・3.1万人/年	・2.9万人/年	・3.0万人/年		
⑤ 農業水利施設のGIS化を図る。	・GIS化対象施設(5カ年間)		・排水機場23箇所 ・用水機場129箇所	・排水機場9箇所 ・用水機場55箇所	・排水機場9箇所 ・用水機場49箇所	・排水機場5箇所 ・用水機場44箇所	-		
⑥ 新規就農者の技術習得を目的とした機械操作研修を実施する。	・研修受講者		・20人/年程度	16人研修に参加	20人研修に参加	23人研修に参加	-		
⑦ 棚田地域の保全活動や土地改良施設の保全・利活用により、農業生産活動及び農村コミュニティの維持・活性化、棚田地域の多面的機能の発揮を図る	新規取組地区数		・1地区/年	2地区	1地区	1地区	0地区		
⑧ スローツーリズムやグリーン・ツーリズムの推進により、里山里海地域の活性化を図る。	農家民宿等の入込客数		・20,000人/年	7,675人	10,182人	19,507人	20,000人		
⑨ 中山間地域の魅力を都市住民に発信し、交流人口の拡大を図る。	ふるさとの匠による体験教室の開催回数		・2回/年	開催なし ※新型コロナのため	1回	4回	3回		
⑩ 農林漁業に対する県民の理解促進を図る。	・イベントへの来場者数		・3万人/年程度	約10,000人/年	新型コロナウイルスの影響により中止	約3万人/年	約2万人/年		

4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針	
① 農業や農作物への理解促進と、環境に対する豊かな感性を持つ子どもの育成を支援する。			
② 里山に対する理解の醸成を図る。			
③ 河北潟において植生保全を通じた水質浄化の調査研究を行うとともに、環境啓蒙活動を実施する。			
④ ひまわり村を通じた、河北潟干拓地農業の普及啓発と、地域の振興発展を図る。			
⑤ 農業水利施設のGIS化を図る。			
⑥ 新規就農者の技術習得を目的とした機械操作研修を実施する。			
⑦ 棚田地域の保全活動や土地改良施設の保全・利活用により、農業生産活動及び農村コミュニティの維持・活性化、棚田地域の多面的機能の発揮を図る			
⑧ スローツーリズムやグリーン・ツーリズムの推進により、里山里海地域の活性化を図る。			
⑨ 中山間地域の魅力を都市住民に発信し、交流人口の拡大を図る。			
⑩ 農林漁業に対する県民の理解促進を図る。			